短 報

術中迅速診断時に神経節神経腫との鑑別が
困難であった神経線維腫症の1例川崎医科大学病理学教室¹⁾, 川崎医科大学内科学教室呼吸器²⁾清水 道生¹⁾ 広川 満良¹⁾ 森谷 卓也¹⁾ 物部 泰昌¹⁾中島 正光²⁾

I. はじめに

神経線維腫症の病変が交感神経節に及んだ場合に神経節神経腫に似た像を呈することがあるといわれている¹⁾。今回われわれは右胸壁腫瘍の術中迅速診断時に提出された組織内に多数の神経節細胞を認め、神経節神経腫との鑑別が困難であった神経線維腫症の1例を経験したので、両者の鑑別点を中心に報告する。

II. 症 例

患 者：29歳，女性

家族歴，既往歴：特記すべきことなし

臨床経過：1992年7月14日の検診にて胸部X線で異常陰影を指摘され，8月3日当院を紹介された。胸部X線では右中肺野外側に胸壁よりなだらかに突出する境界明瞭な腫瘤状陰影（いわゆる extrapleural sign）が認められた。胸部CTでは胸壁から肋骨の走行に沿って，肺との境界が明瞭な多結節性腫瘤として認められた。臨床的に中皮腫が疑われ，右開胸腫瘍摘

出術が施行された。術中所見では第7，8肋骨の肋間神経に沿って数珠状に弾性軟で黄色の腫瘤（約30cm長）がみられた。胸壁の一部が術中迅速診断に提出され，神経節神経腫と診断された。その後の組織学的検索で，蔓状神経線維腫と最終診断され，患者の背部にカフエオレ斑が確認され，von Recklinghausen病とされた。

擦過塗抹細胞像：術中迅速診断用に提出された腫瘤の擦過塗抹標本では延長した紡錘形細胞が密な束を形成し，波状に走行し，それらの細胞境界は不明瞭であった（写真1，上）。それらの細胞群に混じて少数ではあるが大型で核小体の明瞭な神経節細胞が認められた（写真1，下）が，外套細胞は認められなかった。

組織所見：術中迅速診断の標本では細胞診の所見とほぼ同様の紡錘形の細胞がみられ，それらに混じるように散在性に神経節細胞が認められた（写真2，上）。2核や多核，ないしは異型を示す神経節細胞は存在せず，少数ではあるが外套細胞が認められた（写真2，中）。後日，主腫瘤として提出された組織では粘液状の基質を伴う肥大した末梢神経様の断面像が多結節状に観察され，蔓状神経線維腫の像であった（写真2，下）。

III. 考 察

本例では術中迅速診断用に提出された組織にて長紡錘形細胞が主体の部分とそれらに混じて多数の神経節細胞が認められたため，神経節神経腫と診断された。実際には正常に存在する神経節細胞が神経線維腫症の病巣に巻き込まれた像であった。両病変の組織学的な鑑別としては，神経節細胞の異型性の有無，2核ない

Neurofibromatosis mimicking ganglioneuroma in intraoperative rapid diagnosis: Report of a case

Michio SHIMIZU¹⁾, M.D., Mitsuyoshi HIROKAWA¹⁾, M.D., Takuya MORIYA¹⁾, M.D. Yasumasa MONOBE¹⁾, M.D., Masamitsu NAKAJIMA²⁾, M.D.

¹⁾Department of Pathology, ²⁾Department of Internal Medicine (Division of Respiratory disease), Kawasaki Medical School

論文別刷請求先 ☎ 701-01 岡山県倉敷市松島 577 川崎医科大学病理学教室 清水道生

平成5年11月24日受付

平成6年2月18日受理

写真 1 擦過塗抹細胞像。長紡錘形細胞とともに神経節細胞がみられる (パパニコロー染色, 上: ×10, 下: ×40)

表 1 神経節神経腫と神経節を巻き込んだ神経線維腫症との鑑別

	神経節神経腫	神経節を巻き込んだ神経線維腫症
神経節細胞	2核ないし多核のものあり 細胞異型がみられることあり	通常1核 細胞異型なし
外套細胞	通常認めない	認める

し多核の神経節細胞の有無, 外套細胞の有無に着目することが大切であると考えられる¹⁾ (表1)。さらに, 提出された組織がどの部位から提出されたのか, 提出された組織が腫瘍の中心部なのか辺縁部なのかなどについても術中迅速診断に携わる病理医が十分に認識しておく必要があると思われる。本症例の擦過塗抹細胞標本ではたまたま外套細胞は認められなかったが, 神経系腫瘍の細胞診標本で神経節細胞を認めた場合には常に上記の鑑別点に留意して診断をすすめることが大切であると考えられた。

本論文の要旨は第8回日本臨床細胞学会中四国連合会 (平成

写真 2 術中迅速診断時の組織像: 紡錘形の細胞に混じて神経節細胞がみられ (上: H-E 染色, ×10), さらに, 外套細胞 (矢印) も認められる (中: H-E 染色, ×40)
主腫瘍の組織像: シュワン細胞と膠原線維束の増殖からなる多結節性病変で神経節細胞はみられず, 蔓状神経線維腫の像である (下: H-E 染色, ×2)

5年11月14日, 徳島) において発表した。

文 献

- 1) Harkin, J.C. Reed, R.J.: Tumors of the peripheral nervous system. Atlas of tumor pathology, second series, Fascicle 3, pp. 145~149, Armed Forces Institute of Pathology, Washington D.C., 1969.